

クロノスナップ
今を生きる 人こそが宝
第5回

下井木工製作所 代表

下井 義人

(しもしよよしと)さん

今何があっても生きていける 木の価値を見つめ直して

◆東京大空襲を経験

昭和18年、和寒国民学校高等科を卒業後、神奈川県川崎市にある池貝自動車株式会社に入社。戦前は自動車を製造した会社ではあったが、戦時には戦車をはじめとした軍需製品を製造していた会社である。そして昭和20年3月には、あの東京大空襲を経験することとなる。下井さんが当

時住んでいた寮も火事で焼失したという。軍需製品を製造していた地域ということもあり、毎日のように昼間は偵察機が飛び交い、一度空襲がはじまるとB29爆撃機が1000機以上、空を真っ黒に埋め尽くすほど、やってきた。その度に、戦車を埋めて作った防空壕に逃げ込んだという。食べるものもほとんどなく、常

に空腹。さつまいもが少しあたる程度で、生きていただけで精いっぱいという時代を経験してきた。そんな当時の様子を笑顔で話してくれた下井さん。よく生きてこれたと当時を振り返りながらも、今何があってもそう簡単に死ぬことはない。そう語りかけてくれた下井さんの表情は、たくましくもあり、元気に満ち溢れている。

◆建具職人への道

その後、和寒へ戻り終戦を迎えることとなる。当時は仕事もなく苦労する時代ではあったが、嫁入り道具のたんすなどに興味をひかれ、昭和22年に旭川市にある黒川家具店へ住み込みで職人としての技術を学んだ。たんす板を毎日のこびきする生活。たんす専門であったため、その他の技術を習得しようと、昭和25年に北竜町の続木工製作所、昭和28年に芦別市の樋口家具店など建具職人として経験を積んでいくこととなる。そして、昭和31年、和寒に

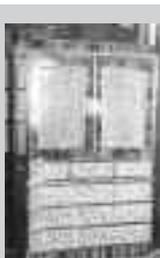
「下井家具店」として独立開業することとなった。

◆建具職人のこだわり

開業当時は、公営住宅をはじめとした建設工事が大変多かった。忙しい時には、朝4時に現場に出て、夜10時まで仕事をしていたという。現在では内まわりがプラスチックやサッシというものが主流ではあるが、当時は木製であったため、とにかく工期に間に合わせることに必死だった。また、その一方で注文に応じた家具なども製作し、木材や金具などにこだわりながら、他にはないぬくもりのある家具を製作してきた。

◆将来に期待するもの

木でしか味わえないものがある。木のおいやぬくもりは生活に安心感を与えてくれる。木そのものの価値を見つめ直してほしい。戦前戦後を経験し幾多の苦難を乗り越えてこられた下井さん。何があっても生きていけること、たくましさや生きることの大切さを教えてくれました。



下井 義人さん[下井木工製作所] 80歳
和寒町字南町 TEL 0165-32-2852

出身：和寒町

経歴：1943年 和寒国民学校高等科卒業。 同年 池貝自動車(株) (神奈川県)

1947年 黒川家具店 (旭川市) 1950年 続木工製作所 (北竜町)

1953年 樋口家具店 (芦別市) 1956年 下井家具店 (現在下井木工製作所)

1991年 1級建具技能士免許取得

趣味：剣道、パークゴルフ